Ⅰ．経　　緯

No.	遺　跡　名	所　在　地	原　因　者	面積	調 査 期 間
1	西ノ原遺跡第11地点	大井町大字苗間字西ノ原 143―4番地	堀井　信義	198m²	昭和58年5月23日 ～5月27日
2	東久保南遺跡第2地点	〃　亀久保字東久保 546―2番地	内田　喜一	264m²	5月30日 ～6月6日
3	東久保南遺跡第3地点	〃　亀久保字東久保 549―4番地	鈴木　正一	326m²	6月7日 ～7月4日
4	西ノ原遺跡第12地点	〃　苗間字西ノ原 123―3番地	塩野　磯男	330m²	7月6日 ～8月11日
5	西ノ原遺跡第13地点	〃　苗間字西ノ原 114―6番地	塩野　好弘	350m²	9月13日 ～10月18日
6	西ノ原遺跡第14地点	〃　苗間字西ノ原 143番地	堀井　保夫	240m²	10月24日 ～11月7日
7	苗間東久保遺跡第9地点	〃　苗間字東久保 642―1番地	堀井　昌平	660m²	11月8日 ～12月5日

表2　昭和58年度発掘調査一覧表

件，農地の天地返し1件であった。調査総面積は2,368m²である。No.7の苗間東久保遺跡を除いては，すべて市街化調整区域に位置し，分家住宅，住宅の拡張等による宅地造成である。今後，富士見市勝瀬に予定されている東武東ト線の新駅設置に関連して，今回調査の3遺跡は，駅への至近距離にあり，ますます開発が進む地域であり，充分な調査計画と保存対策が求められてくることになる。

2．調査事業の経緯

5月23日からの，西ノ原遺跡第11地点の発掘調査を皮切りに，報告書刊行までの調査事業の経緯は表3のとおりである。

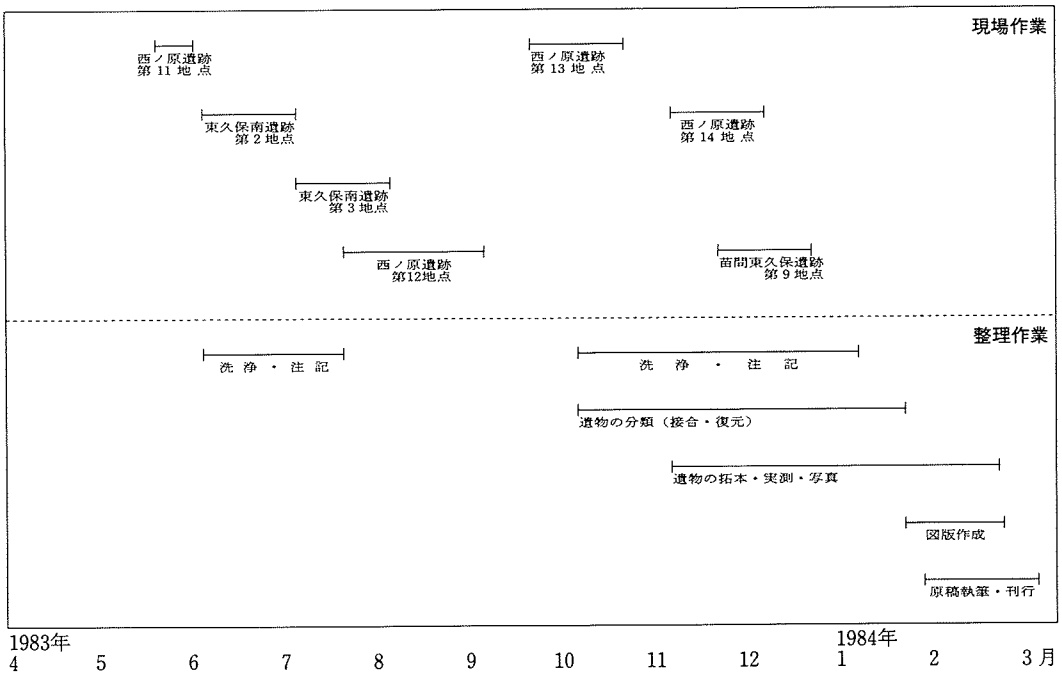
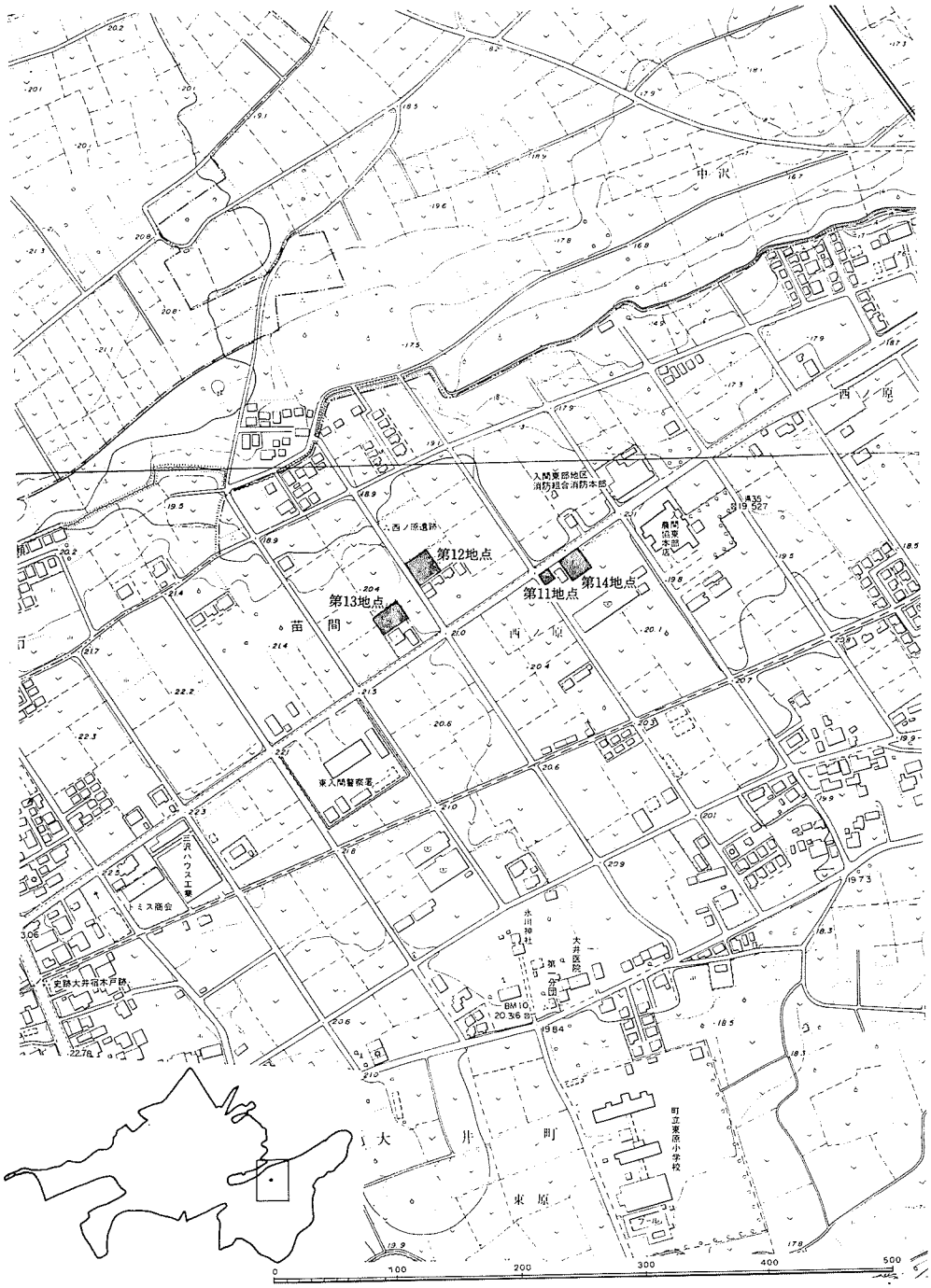


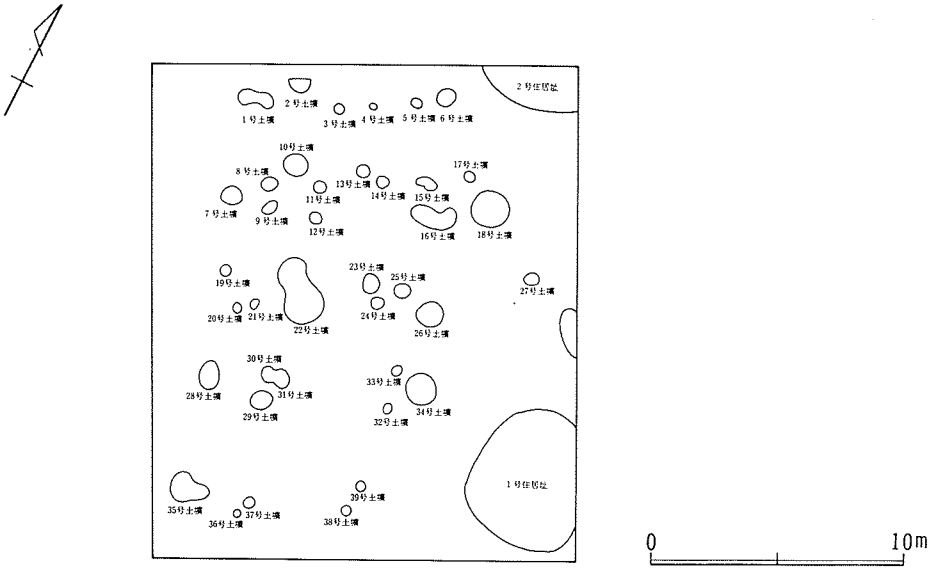
表3　事 業 の 経 緯

III. 西ノ原遺跡第11地点



第 5 図　西ノ原遺跡の地形と調査区 $\left(\frac{1}{5,000}\right)$

Ⅵ。西ノ原遺跡第12地点



第 14 図　遺構分布図 $\left(\frac{1}{300}\right)$

1．遺跡の立地と環境

昭和46年に初めて調査された西ノ原遺跡第 1 地点のすぐ南側が今回の第12地点の調査地点である。標高は20m。調査区周辺はまだまだ畑地が多く，強風の吹いた日の翌日などは縄文土器片や礫などが露われる。ちょうど西ノ原遺跡の中央部分にあたる。

2．調査の概要と経過

調査地点は330m²の広さで17m×19.5m の方形な土地である。畑の表面には磨耗が著しい縄文土器片や焼石・礫等が散布し遺構の検出は確実視されていた。調査は 7 月 6 日，遺跡の現状写真撮影後，調査区西側から南北に幅 2 m のトレンチを設定し作業をすすめてきた。北東隅部より住居址とおもわれる落ちこみを確認。現地表面からローム面まで30cmと浅く，ゴボウのトレンチャーによる攪乱が東西に約30cmごとにはいりこんでいる。25日に調査区の南東隅部に 1 号住居址を確認する。包含層が広く覆っていたため平面プランを検出するのは時間を要した。また住居址内の遺物が予想以上に多く調査を精密に実施した 1 号住居址の調査が終了したのはもうお盆の声を聞く時期であった。検出された遺構は縄文時代中期の住居址 2 軒と，土壙39基。遺物はコンテナバット箱で約13箱であった。

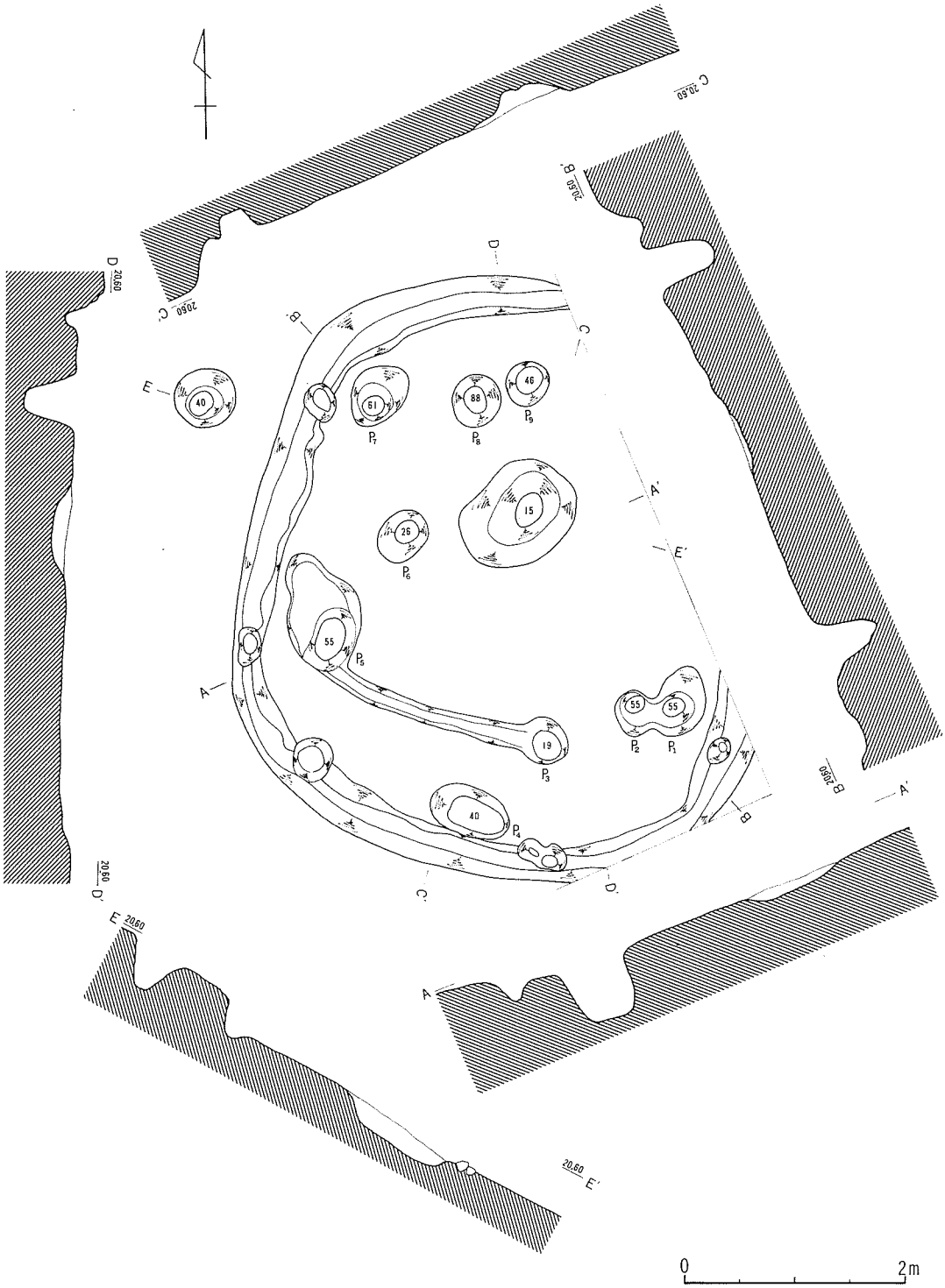
3．遺　構

第 15 図　1号住居址遺物出土状態（$\frac{1}{60}$）

3．遺　構

第 16 図　1号住居址遺物出土状態（$\frac{1}{60}$）

3．遺　構



第 17 図　1号住居址 $\left(\frac{1}{60}\right)$

3．遺　　構

(1)　1号住居址（第17図）

調査区の南東隅から検出された。住居址の北東部分が調査対象区域外にかかった。

規　　模　長径540cm，短径485cm。

長軸方位　N－14°－E。

プ ラ ン　南北にやや長い隅丸長方形。

壁　　高　20～23cm。

床　炉を中心として踏み固められているが，堅固な状態ではない。

炉　住居址の中央部よりやや北側に位置。長径114cm，短径84cmを測る楕円形を呈する。N－37°－E。石囲炉で，使用されていたと思われる6点の石が出土した。

柱　　穴　総数9個検出，壁溝内にも小ピットが検出された。

壁　　溝　幅20cm，深さ10cm，壁直下をほぼ全周する。

遺　　物　総数3,326点出土。遺構確認時に多数の土器片が出土しているため遺物の分布図には示されていない。住居址中央部で密に，壁付近で粗に分布する一般的なレンズ状の堆積状態。このうち，ほぼ完形品6点と推定復元の可能な20点の遺物を図示（第19～21図）。

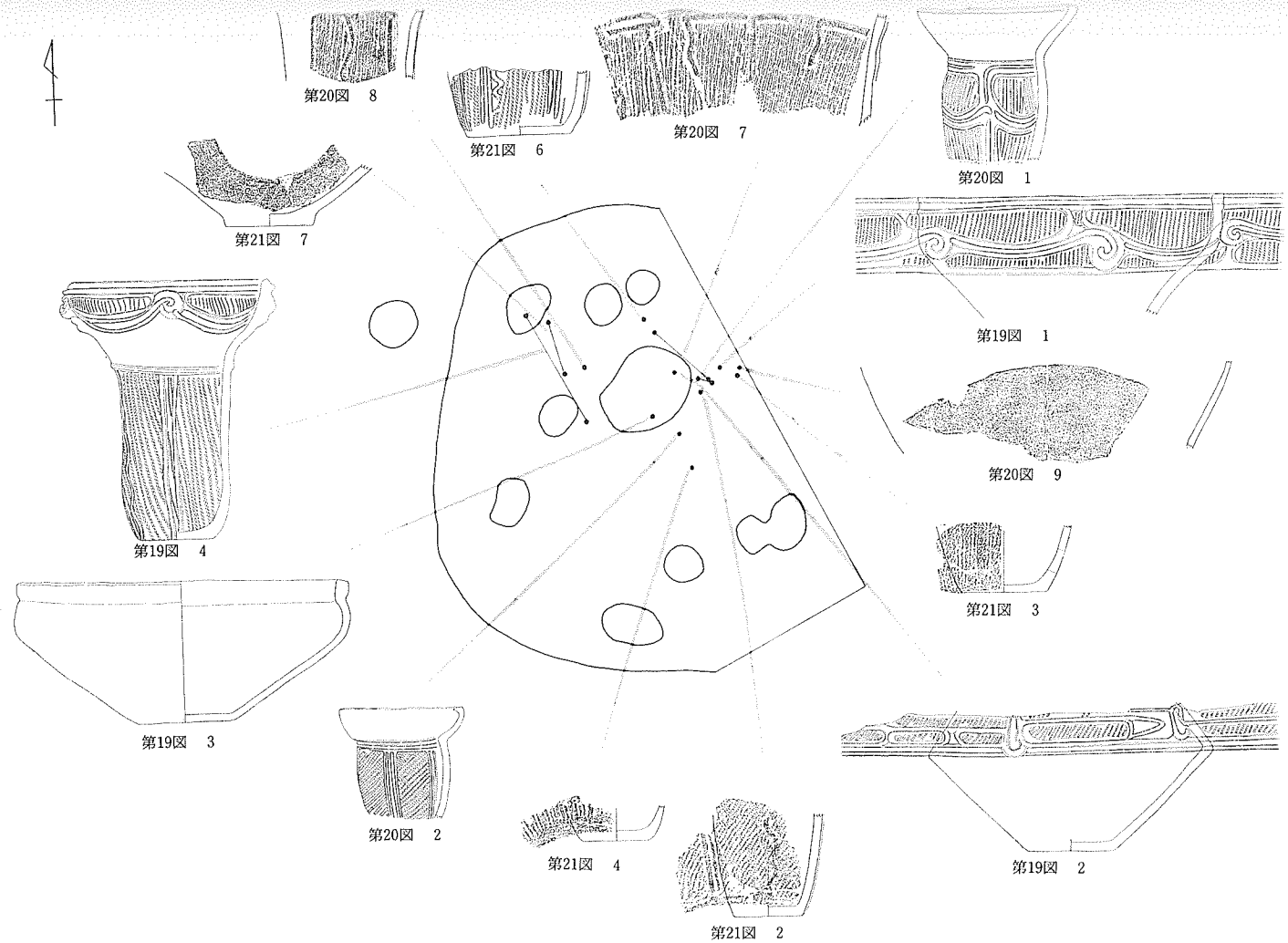
覆　　土　床面直上はロームを含む非常にしまりのある暗褐色土，全体的にしまりのある黒褐色土層。

本住居址中央部より南側にP_3とP_5に通ずる幅15cm，深さ5～8cmの浅い溝が検出された。全体としてはしっかりした良好な住居址である。

4．遺　　物（第19～21図）

出土遺物については，報告書作成段階では未だ整理途次のため全貌を紹介できないが，完形品とその他の復元可能な土器10数点を掲載した。遺物の出土状態は炉址を中心とした北東側に完形土器が集中している。全体的には南西側から北側にかけて集中がみられる。その包含状況は一定レベルに片寄ることなく，全般的に出土しているといえる。接合関係では，住居内において近接して接合しているといえるが仔細な検討は今後にゆずりたい。

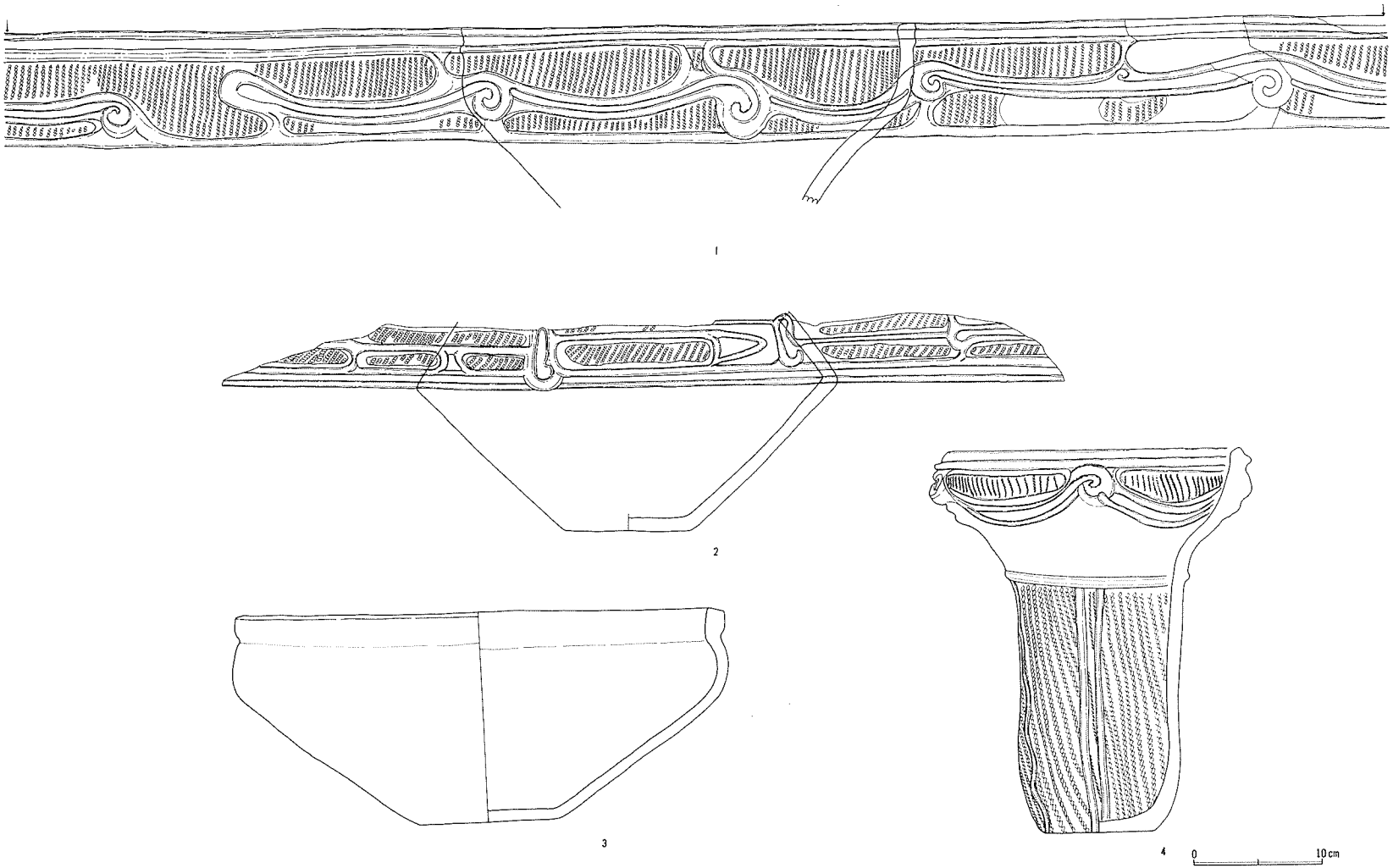
伴出土器の主体は，区画文や渦巻文が中心の頸部が無文帯の深鉢形の土器と，無文の口縁部が外反し，胴部文様体に沈線による懸垂文を持つ土器，また町内では初めての浅鉢形土器が出土し，無文土器と口縁部が「く」の字状に屈曲し，文様帯を持つものがある。胴部文様体の多くは，隆帯による蛇行文と懸垂文を持つ土器が多く出土している。これらの土器から本住居址は加曽利EI式期新期の時期に比定されよう。



第 18 図　1号住居址遺物出土状態

VI. 西ノ原遺跡第12地点

図番	器形・部位	文　様　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第19図 1	深　鉢	胴下半部を欠損 口径36cm，現存高19cmを測る。 口縁部文様帯は，2本の隆帯による連結渦巻文と区画文でモチーフが構成される。上・下2本の隆帯による文様帯は口唇部とも連結している。渦の巻く方向は右と左の2種あり7箇所の渦巻のうち5箇所は縦位の右巻，2箇所は横位の左巻に配されているうち1箇所は天を向いている。つくりはきわめて丁寧である。区画文内には撚糸のLの地文が縦位に充填されている。頸部無文帯との境界は1本の隆帯による。	砂粒を含む 両面とも赤褐色 良好	1号住居址出土
2	浅　鉢	胴上部と胴部約¼を欠損，最大径33cm，底部径9.8cmを測る。文様帯は胴上部の内屈した部分に描出されている2本の隆帯による区画文で，大小の長方形をつくり出している。一部に剣先文を描いている。地文には原体L｛R/Rの縄文を横位回転して施文されている。胴下半は無文で箆削りとなでが施される。	白色粒を含む 外黄褐色 内黒褐色 良好	〃
3	浅　鉢	完形，口径38cm，底径10.5cm，高さ16.5cm，口縁部は若干外反。厚く作られ口唇は平坦に整形されている。胴部は内彎する器面に文様が施されることはなく，内外面に箆状の施文具によって平滑に調整が施されている箆の施文方向は横位である。	砂粒，白色粒を多く含む 外にぶい黄褐色 内灰褐色 良好	〃
4	深　鉢	胴部を一部欠損するがほぼ完形 口径23.5cm，高さ30cmを測る。口縁部文様帯には2本の隆帯による渦巻と枠状区画文が交互に連弧状に連なってめぐらされている。6単位構成となっている口唇部の一本の隆帯と，6箇所の右巻の渦巻は連結している。頸部は無文帯で，胴部との境界は一本の横位の隆帯による。胴部文様帯は2本で1単位の直線と蛇行隆帯が交互に3単位懸垂されている。地文は撚糸Lを縦位に施す。地文は底部まで，丁寧にされている。	砂粒を多く含む 外褐色 内暗赤褐色 もろい	〃
第20図 1	深　鉢	口縁部の一部と底部を欠損。 口径17.2cm，現存高18.5cmの小形のものである。口唇は内側に肥厚する。口縁は無文。胴部には全面にわたって沈線が描かれている。胴上部には半月状に枠状区画文が3単位，下部に凹形の枠状区画文が描かれている。それぞれの境界は沈線文で，地文には櫛目状沈線が縦位に施されている。	砂粒を多く含む 外赤褐色 内暗褐色 良好	〃
2	〃	口縁部約½と底部を欠損。 口径14cm，現存高13cmの小形の土器，口唇は内側に肥厚する若干内彎した口縁部は無文で丁寧に整形されている。頸部には3本の沈線がめぐらされ胴部以下とを明確に分帯している。胴部には3本の沈線による懸垂文が6単位配されている。地文は原体R｛L/Lの縄文が縦位方向に回転施文されている。	砂粒を多く含む 外暗赤褐色 内灰褐色 良好	〃

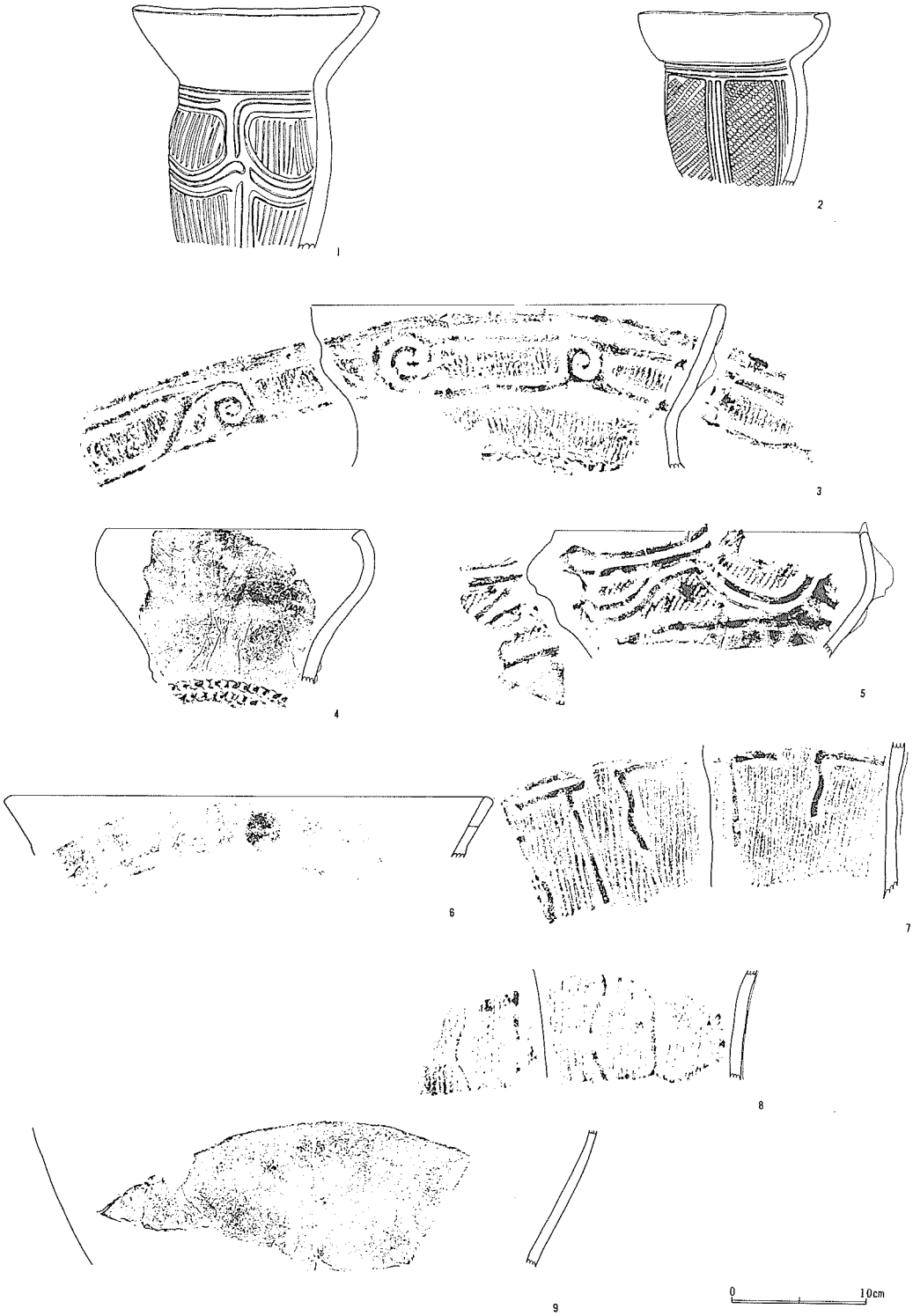


第 19 図　1号住居址出土土器（$\frac{1}{5}$）

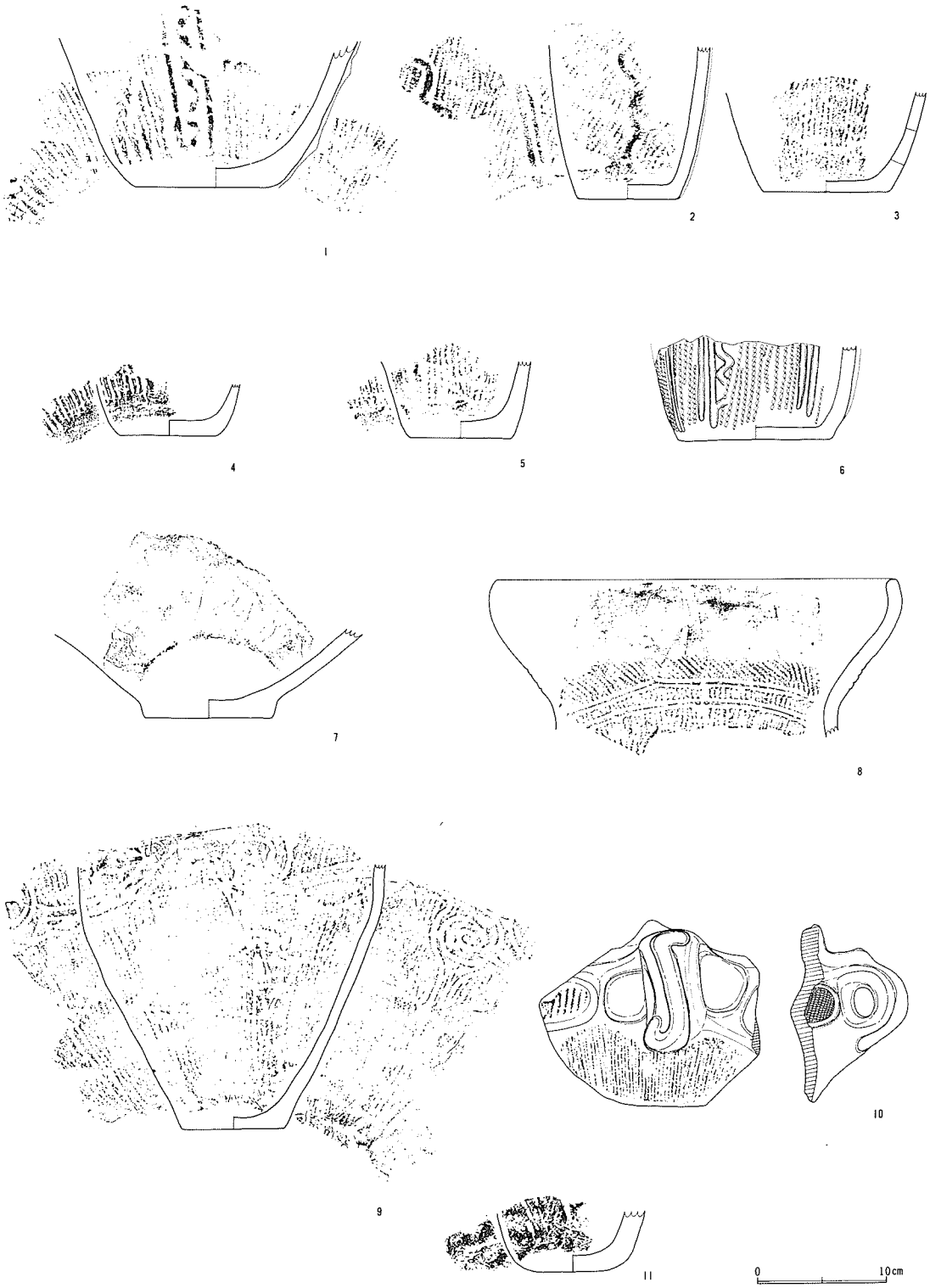
VI. 西ノ原遺跡第12地点

図番	器形・部位	文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 3	深鉢	胴部欠損。口径31cm，現存高12.5cm，口縁部文様帯は比較的幅が狭く隆帯による渦巻文と枠状区画文が横に展開されている。頸部に1本の隆帯がめぐらされ刺突文が施されている。地文は撚糸文Lが施されている。	小礫，砂粒を含む 外暗褐色 内黄褐色 良好	包含層出土
4	深鉢　口縁部	推定口径19.5cm，内彎した口縁部は無文で丁寧に整形されている。頸部には2本の隆帯がめぐり，その上を刺突文が施文されている。	小礫を含む 暗茶褐色 良好	1号住居址炉址出土
5	〃　〃	推定口径23.5cm，口縁に隆帯による円形文を突出させ突起を作っている。口縁部文様帯は2本隆帯による渦巻文と区画文を描いている。4単位構成をとると思われる区画内には，地文として原体L｛R/Rの縄文を横位に施文，頸部は無文帯。	小礫を含む 暗褐色 良好	〃
6	浅鉢　口縁部	推定口径35.8cm，口唇が平坦に整形。無文帯で内外面に箆状の施文具によって平滑に調整される。	緻密，赤褐色，良好	1号住居址覆土出土
7	深鉢　胴部	1と同様の文様構成体である頸部と胴部の境界に2本の隆帯をめぐらしている。	緻密，褐色，良好	〃
8	〃　〃	地文にLの撚糸文を縦走し1本隆帯と1本蛇行隆帯が懸垂している。	砂粒を含む 褐色，良好	1号住居址床直出土
9	浅鉢　胴部	無文帯土器，きわめて丁寧に整形されている。推定胴部径42.5cm。	小礫を多く含む 暗褐色，良好	
第21図 1	深鉢　底部	底部径12.5cm，2本の隆帯の間に1本の蛇行隆帯が2単位懸垂する。地文には櫛目状の沈線が縦位に施される。	緻密 赤褐色，良好	1号住居址覆土出土
2	〃　〃	底部径9.5cm，2本の隆帯と1本の蛇行隆帯が3単位垂下する。地文には原体R｛L/Lの縄文を横位施文する。	砂粒を含む，明赤褐色 内黒褐色，良好	1号住居址床直出土
3	〃　〃	底部径9.5cm，地文にLの撚糸文を縦走。	砂粒を含む，赤褐色，良好	1号住居址覆土出土
4	〃　〃	底部径8cm，　〃	〃　黄褐色　〃	〃
5	〃　〃	底部径8.5cm，1本の隆帯が4単位懸垂する。地文はLの撚糸文を縦走。	〃　赤褐色　〃	〃
6	〃　〃	底部径12cm，2本の隆帯が8単位垂下するうち2単位には右側に1本の蛇行隆帯がともない懸垂する。	金雲母を含む，赤褐色　〃	〃
7	浅鉢　〃	底部径10cm，文様は全く認められない。	白色粒を含む，赤褐色，良好	〃
8	深鉢　口縁部	推定口径31cm，口縁部は内彎している。口唇は内側にやや肥厚する。文様体は口縁部にはなく頸部から胴部にかけて認められる。竹管状工具による2条の沈線を頸部にめぐらせ下位には2本の沈線と1本の蛇行沈線を懸垂させている。地文は横位の沈線上部はR｛L/Lの縄文を横位回転，下位は同縄文を縦位回転させている。	緻密 暗褐色 良好	2号土壙出土
9	深鉢	口縁部を欠く2本の沈線による連結渦巻文と区画文で構成され，2本1組の沈線による懸垂文が描出される。地文に撚糸文Lを縦位に施文。	緻密，外赤褐色 内黒褐色，良好	包含層出土
10	深鉢　口縁部	橋状の大形把手部，沈線による枠状区画文の文様が描かれる。区画文内には原体L｛R/Rの縄文が充塡されている。頸部にかけて櫛目状の平行線が丁寧に施文される。	緻密，外黄褐色 内黒褐色，良好	34号土壙出土
11	深鉢　底部	底部外径7.5cm，内径4.5cm，沈線が2本1組のものと1本のものがセットになって垂下される。	緻密 黄褐色，良好	包含層出土

4．遺　物



第 20 図　1号住居址出土土器（$\frac{1}{5}$）

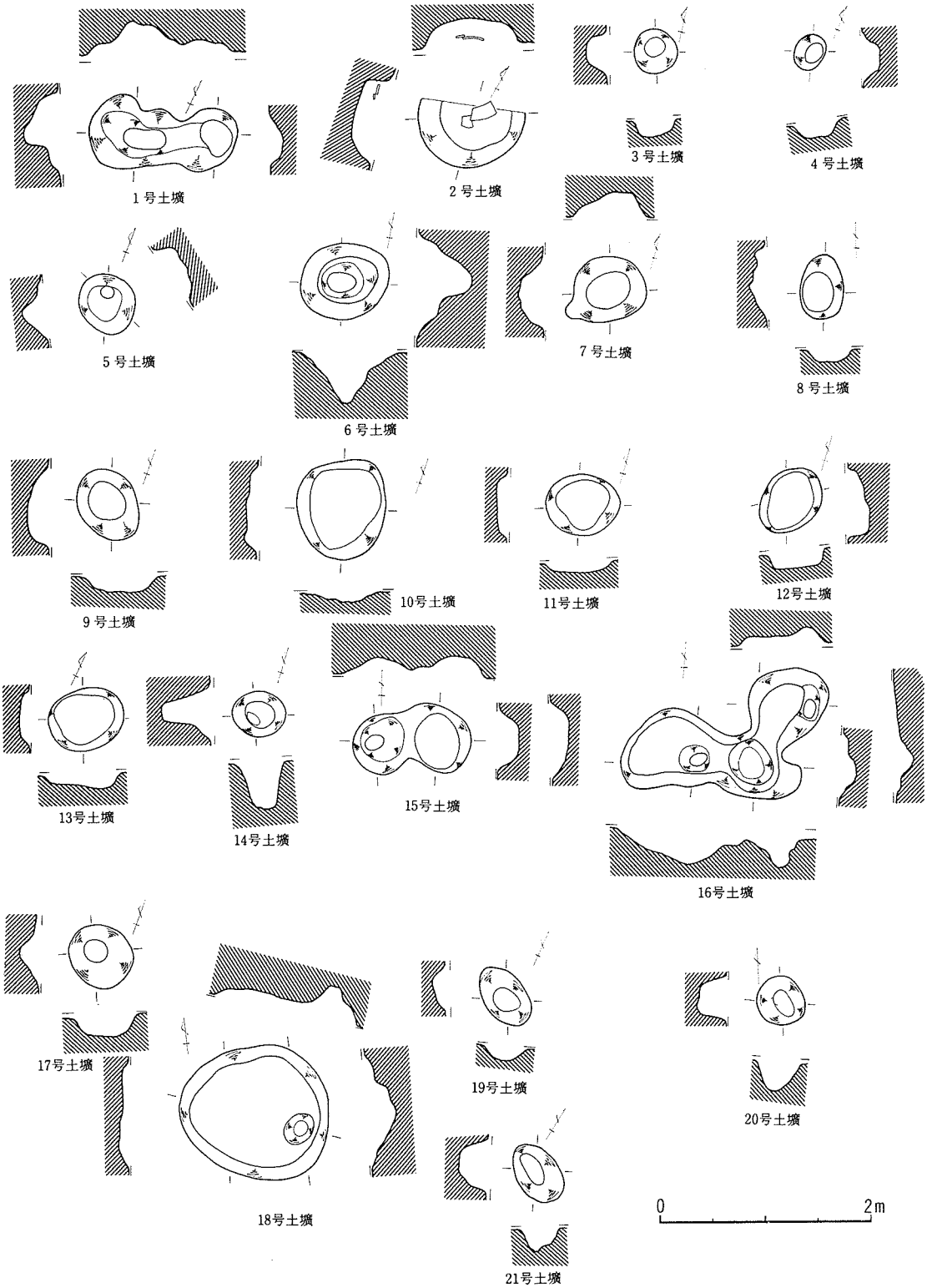


第 21 図　1号住居址・土壙出土土器 $\left(\frac{1}{5}\right)$

5．土　　壙

土壙No.	形　状	規模(長×短) cm	深さcm	長軸方位	壙　底（断面）	遺　　物	備　　考
1	不整形	142×70	32	N—70°—E		石器１点	第22図
2	円　形	100	24			土器17点	
3	〃	43	19		平坦		
4	楕円形	35×28	15	N—13°—W	平坦		
5	〃	60×54	23	N—18°—W	段をもつ		
6	〃	88×75	48	N—50°—E	狭く急に立ち上がる	土器13点，礫２点	
7	不整形	81×65	23	N—46°—E	平坦，西側はなだらか	土器，石器，礫１点ずつ	
8	楕円形	62×42	14	N—６°—E	やや段をもつ		
9	〃	73×56	18	N—51°—W	〃		
10	〃	95×85	12	N—35°—E	〃		
11	〃	70×57	10	N—76°—E	平坦		
12	〃	69×54	19	N—８°—E	〃		
13	〃	73×59	13	N—41°—E	〃		
14	円　形	50	43		壙底16cm	土器，礫２点	
15	不整形	113×70	21	N—76°—E	平坦	土器２点，礫１点	
16	Ｌ字形	170×135	5			土器５点，礫３点	ピットを３本もつ
17	楕円形	63×56	14	N—61°—W	壙底は狭い	土器17点，礫８点	
18	〃	143×128	20	N—69°—W		土器36点，礫４点	１本のピットをもつ
19	〃	64×40	14	N—71°—W	なだらか	土器２点	
20	〃	62×40	27	N—66°—W	段をもつ		
21	円　形	47	26	N—66°—W	平坦	土器１点，礫１点	

VI. 西ノ原遺跡第 12 地点



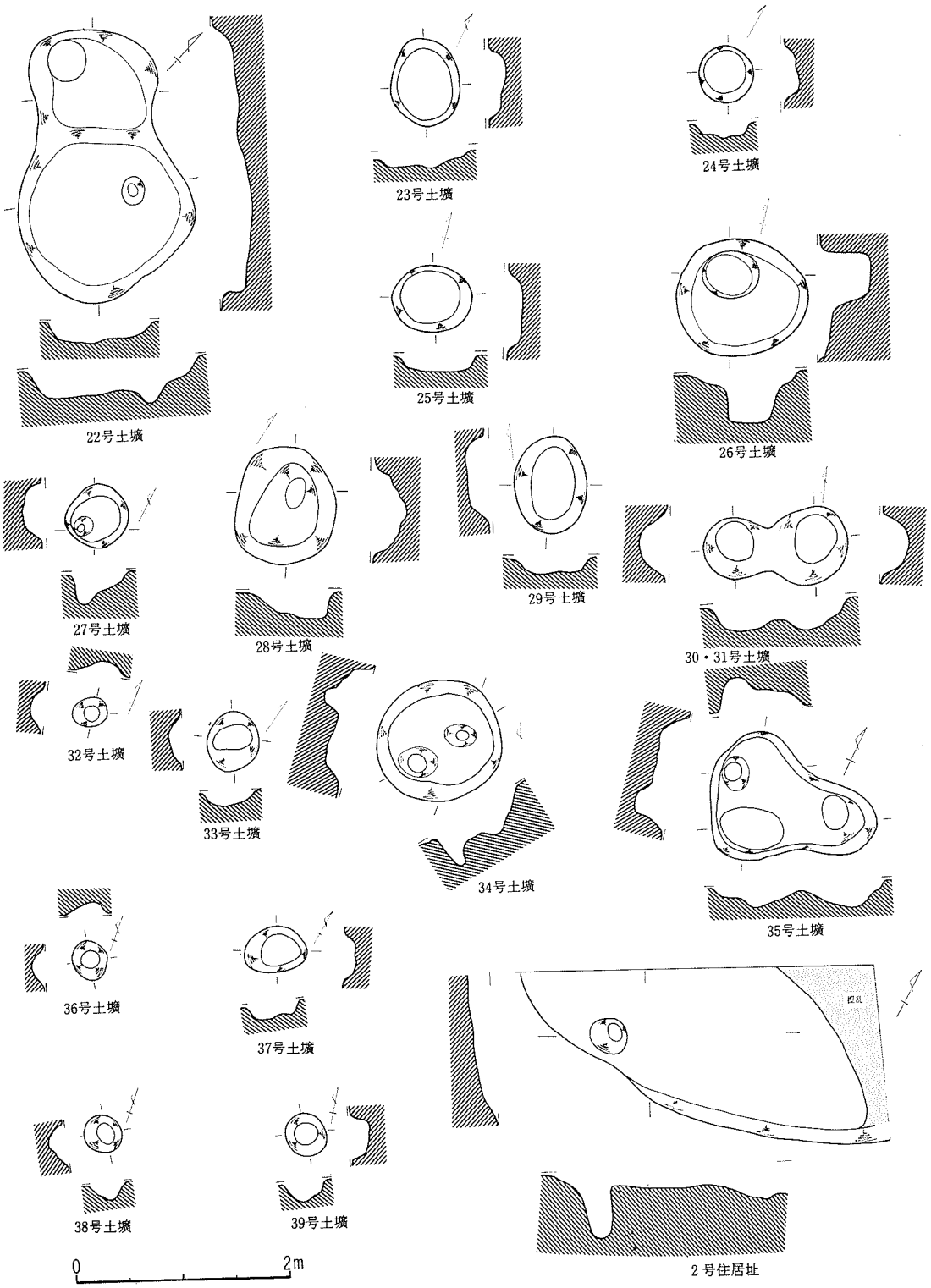
第 22 図　1 号～21号土壙 $\left(\frac{1}{60}\right)$

5．土　　壙

土壙No.	形　状	規模(長×短) cm	深さcm	長軸方位	壙　底（断面）	遺　　物	備　　考
22	不整形	260×165	30	N－46°－W	平坦	土器７点，黒曜石１点，礫１点	第23図 ピットを１本もつ
23	楕円形	83×64	15	N－31°－W	段をもつ		
24	円　形	50	13		〃		
25	楕円形	76×63	11	N－86°－W	鍋底形		
26	円　形	120	46		平坦	土器24点，黒曜石１点，礫13点	
27	〃	55	28		段をもつ	土器２点	
28	楕円形	110×91	26	N－26°－W	平坦	土器12点，黒曜石１点，礫６点	
29	〃	92×69	17	N－13°－E	やや段をもつ	土器５点	
30	円　形	60	24		丸底	礫１点	
31	〃	78	24		〃		
32	〃	31	10		平坦		
33	楕円形	57×48	12	N－28°－W	なだらかに立ち上る		
34	円　形	120	24			土器２点	ピット２本をもつ
35	不整形	160×122	18	N－78°－E	平坦	土器12点，礫４点	ピット３本をもつ
36	円　形	33	12		底は小さい		
37	楕円形	60×45	13	N－79°－E	やや段をもつ		
38	円　形	35	15		狭い		
39	〃	40	18		〃		

2号住居址

調査区の北東隅部から検出，東側は最近の大きな攪乱がはいり乱れていた。ピットを１本検出。壁は，南側で立ちあがるが，西側では確認されなかった。床面は踏み固められていないが，ほぼ平坦である。



第 23 図　22号～39号土壙，2 号住居址 $\left(\frac{1}{60}\right)$

図 版 1　西ノ原・東久保南遺跡

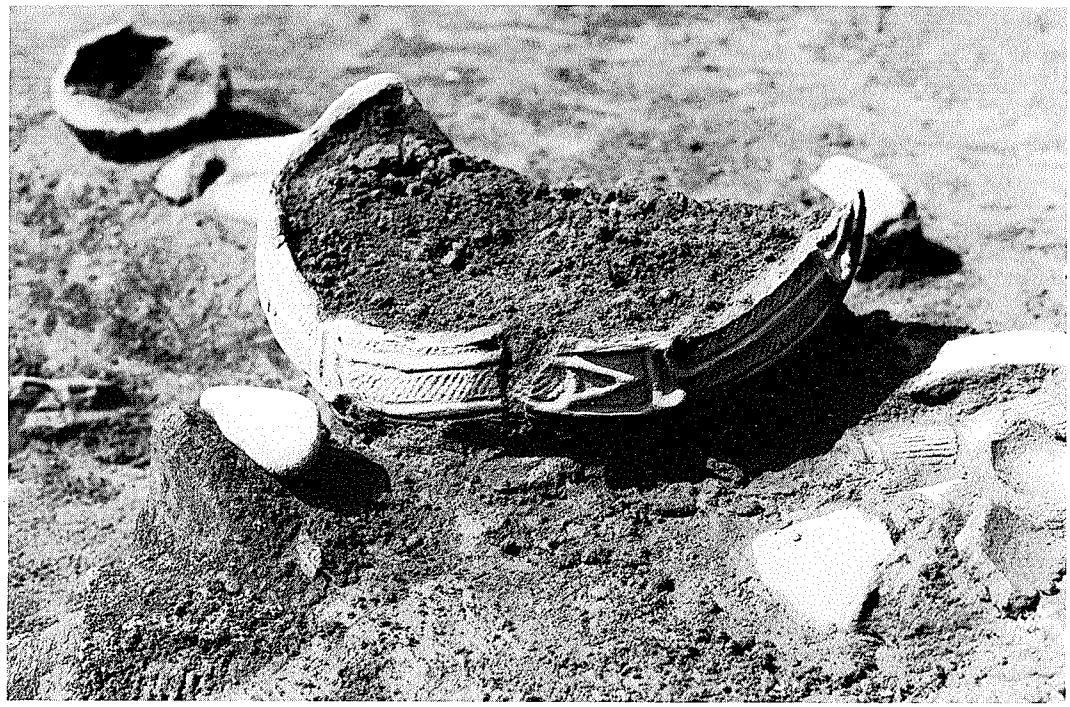
西ノ原・東久保南遺跡周辺の航空写真

図 版 12　西ノ原遺跡第12地点

(1)　遺跡近景

(2)　発掘作業風景

図 版 13　西ノ原遺跡第12地点

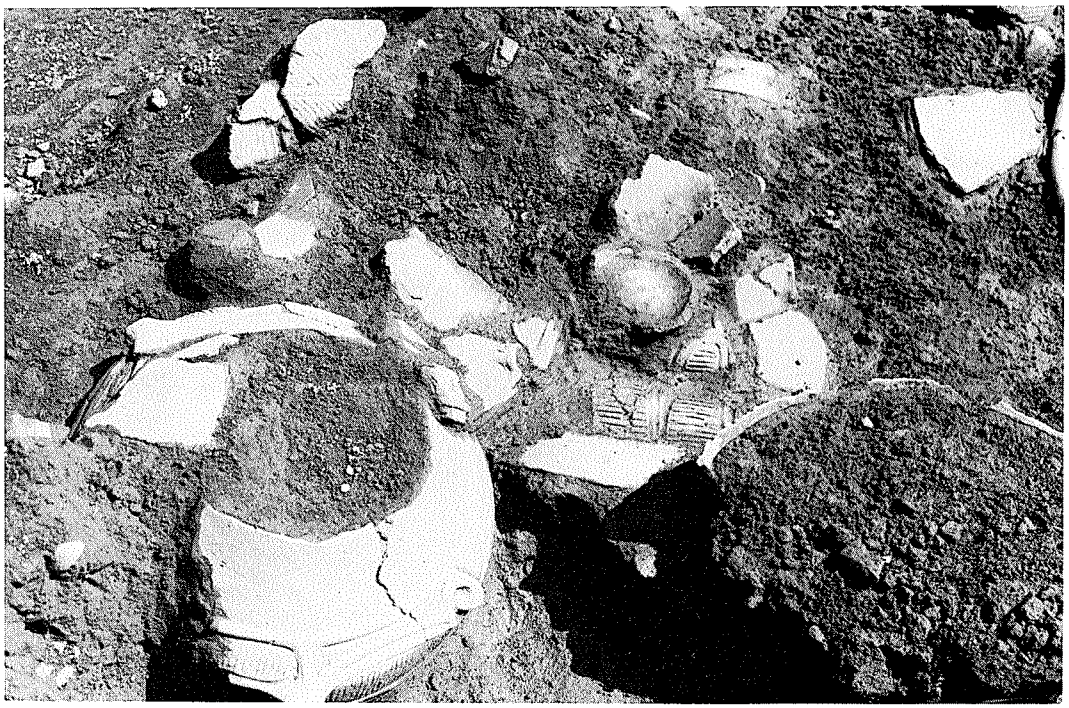


(1)　住居址遺物出土状態

(2)　住居址遺物出土状態

図 版 14　西ノ原遺跡第12地点

(1)　住居址遺物出土状態



(2)　住居址遺物出土状態

図 版 15　西ノ原遺跡第12地点

(1)　発掘作業風景

(2)　住居址遺物出土状態

図 版 16　西ノ原遺跡第12地点

(1)　住 居 址

(2)　住 居 址

図 版 17　西ノ原遺跡第12地点

(1)　出土土器

(2)　出土土器

図 版 18　西ノ原遺跡第12地点

(1)　出土土器

(2)　出土土器